

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393500081		
法人名	特定非営利活動法人 ラヴィラント		
事業所名	グループホーム バオバブの木		
所在地	岡山県苫田郡鏡野町富東谷438		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 14 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんの平均年は90歳を超えました。車いす生活の方が増えたり、日々の体調の変化が激しくなってきた方もおられ、みんなで一緒に身体を動かすことはなかなか難しくなってきました。多くの利用者さんの一番の楽しみは食べることです。施設では、「口の中から健康に！」を目標に、数年前から利用者さんにいつまでもおいしく食べて元気に過ごしていただけるよう、毎日の口腔体操、口腔ケアに継続して取り組んでいます。月に1回程度、歯科衛生士さんに来ていただいて口腔体操等を一緒にしたり様子を見ていただいています。内科医や歯科医の訪問診療等の協力の元、コロナ禍でも安心して暮らすことができています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3393500081-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 12 月 9 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『昔ながらの風景に溶け込んで欲しい』ので、眺めが良い場所に設立し、馴染んで頂いている。部屋もブルーのカーテン、共有部分はピンクのカーテンにコーディネートし、居心地よくしている。少しでも今の状態を維持しようと洗濯物は自分で畳むなど、自分のことは自分でする生活に導いていて、小学校の机をもらい受けたことも、懐かしさや生活しやすい机の高さまでも心配りしていた。また、トイレの札も、使用中や電気確認の他、札を落とし、拾いかけて転倒に繋がったことから、安全にも成果があった。おやつ時にルイジアナ・ママなど懐かしい軽快なBGMを流し、楽しい空間を醸しだし、レクも小さいと見えない方も多いことから、わかりやすく大きく心がけ、かるたの字も大きく作成したことで、こだわりの数字かるたとなり、読み上げる度に利用者の顔がほころび、歓声が湧き上がる日課となっている。介護やレクの合間の職員のおしゃべりからアイデアが生まれ、何でも語れる場も出来上がり、できなかった時は、普通のノートに落書き風に記載し、胸に落ちる情報共有となっているのも、仲が良い関係が築かれている。「今日は何月？今日は何日、曜日？」と聞く利用者が多く、3時のおやつ後に、利用者が2か所の大きなカレンダーにカラフルな色付けをして、今日の日を理解できている。そんなバオバブの木の如く、千年の樹齢で毎年白い花を咲かせるように、毎日の1ページを刻む利用者の笑顔があった。常に利用者に合わせて何度も試行錯誤しながらの工夫が一つずつ実っていて、将来が頼もしい。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議の始めに、代表者から理念に関したことも含めた話をするように心がけています。	理念は玄関とリビングの職員が目に触れられるところに掲示している。理念を頭の片隅に常に置くことで、日々の業務に役立てている。新入職員には、管理者から理念を伝えることで理解して頂き、何かわからないことがあれば、質問に答えることでより明確となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ禍のため交流ができていませんが、富ボランティアの方が今年も施設の掃除にきてくださいました。利用者さんとの交流はできませんでしたが、職員と一緒に掃除の様子を見て、庭などがきれいになった様子を喜んでおられました。	地域清掃に職員が参加したり、散歩の際には、地域の方と挨拶を交わしたりする関係ができています。正月には毎年近隣住民の訪問があり、利用者と一緒に飾りの作成をしています。コロナ前には、保育園児との交流や地区のお祭りの神輿が来てくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の施設のお便りを地域にも回覧して、利用者さんの活動状況等を地域の方にも知っていただけるようにと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策のため、現在のところ文書での開催を行っています。	会議は、病院関係者、振興センター長、区長会長、民生委員、老人クラブ、婦人会、公民館長、保健福祉課、地域包括、利用者や家族が参加している。入居者状況、事故発生状況、活動報告、職員の体験談について報告を行った。現在は郵送にて開催しているが、コロナの状況を見ながらリアル開催もできた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	開所以降常に利用者が少ない現状があり、なかなか現状は解決しませんが、常に要望を伝えさせていただったり時には話し合いの場を設けてくださっています。	管理者か事務員が窓口となっている。やり取りの基本はメールだが、電話連絡の場合もある。最近では、抗原検査の案内やコロナ感染状況、ノロウイルス関連の情報を頂いた。加算状況の確認をした際には、親切・丁寧に教えてくれたことで、施設は大助かりであった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望が強く落ち着かない様子の利用者さんが多いですが、対策について話し合いをしたり、センサーの利用や見回りを増やして身体拘束をしないケアを行っています。	身体拘束や日中の施錠はしていない。勉強会の時には、職員に対して、自分や家族がされて嫌な事と感じたり思う事はやめようと再確認している。また、虐待防止と身体拘束、スピーチロックに関しても触れることで意識を高めている。事故報告書にまとめて全体で共有することで、再発防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修では自分の介護を振り返り、虐待のないケアを行えるよう努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者さんもおられます。市民後見人養成研修に参加した職員もおり、学んだことを他職員とも共有できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明を行い、ご理解いただけるよう努めています。質問等があればその都度対応するようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りで活動の様子をお伝えしたりお電話や来所の際に様子をお伝えする中で、ご家族の思いやご意見も聞けるよう努めています。	家族からの意見は、事務員が電話で聞き取ってまとめたものを職員で検討している。利用者から「コタツが欲しい」という要望があり、家族がすぐに持って来てくれたことがあった。月1回の「バオバブ・ねむだより」を郵送があり、利用者の写真と職員のメッセージを見ることが、家族の楽しみとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング、申し送りの他、普段から意見を聞けるように努めています。意見があれば代表者と管理者で話し合いをして対応します。少人数で職員同士すぐ話ができるため意見等があればすぐに伝わってきていると思います。	連絡ノートを活用することで、利用者の情報共有ができています。職員間の仲は良く、お茶を飲みながら和気藹々と過ごすことで、何でも言える関係ができています。有給休暇の取得もできていて、働いている職員は「仕事が楽しい」と答えてくれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や資格取得等に応じて昇給を考慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度も感染対策のため、施設外研修に参加しにくく施設内研修が主になっていますが、オンラインも活用して研修に参加しました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度も感染対策のため、施設外の方と交流する機会がなかなかありませんが、研修に参加した際には他施設の職員さんと情報交換等ができています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居して間もない利用者さんには特に、ご家族からその都度情報をいただいたり、信頼関係が築けるよう生活の様子の観察、傾聴に心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、申し込み、面接の際には、困りごとなどのお話を詳しく伺います。特に初期は、家族が安心して利用者さんを預けられるよう配慮して様子を伝えたり情報をいただいたり関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の様子や家族等のお話を伺う中で、当事業所のサービスでよいのかなど、協力医にもアドバイスをいただきながら他サービスも含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分のことでも施設のことでも、食事の片づけや掃除などのできることはしていただき、一緒に生活する雰囲気作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんはやはりご家族を必要とされておられるので、安心できる立場として協力していただきたい思いを常にお伝えしています。感染対策での面会制限は利用者さんには理解し難く、感染状況を鑑みて窓越しや玄関での短時間の面会で対応しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策のため外出することやご家族以外の方にお会いすることが難しくなっているため、ご家族になるべく定期的に面会にきていただけるようお願いしています。	現在面会は、人数制限や短時間で玄関で実施している。利用者本人が作成した年賀状を送ることが毎年の恒例行事となっている。リビングのソファに腰掛け、ゴリラのぬいぐるみとの会話を楽しんだり、外の風景を眺めたりして過ごしている。ドライブの際に、たまたま職員に遭遇し、「この人みたことあるな」と挨拶を交わす関係ができていて、職員が馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで一緒にできる行事を計画したり、レクに参加できるよう声をかけたり、時にはテーブルの配置換えをしている方と関りが持てるように考えています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も機会があれば家族等から様子をお聞きし、必要に応じてサービスを紹介したり相談に応じられるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から思い出を聞いたりしてできる限り希望に添えるようにという思いですが、今年度は感染対策のため帰宅願望等にはお応えすることができていません。	家族からの聞き取りや昔好きだったものを確認している。もし合わなかった場合は、利用者の様子を見たり、職員間で話し合うことで、意向が把握できるように工夫している。毎日の日課として、日付確認のための色塗りをして頂いているが、その日の状態によって無理強いをさせないように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や入所時に全部情報を得ることは難しく、入所後の本人やご家族とお話でわかってくることもたくさんあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化に気づいたときには記録に残すようにしており、ミーティングや会議等で話し合い職員全員で現状把握ができるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、管理者、介護職員それぞれの立場で、本人や家族や主治医などから聞いたことや介護の状況を計画につなげられるよう会議等で話し合いを行います。	介護計画は基本、入居時に暫定プラン、何もなければ半年ごとに更新し、何かあればその都度見直しをしている。ケアマネを中心に話し合い、長期目標や短期目標を掲げ、利用者に無理のないプランとなっている。日々の介護がモニタリングとなっていて、支援経過に記入することで職員間で共有することができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	具体的な記録を残すことを目標に実践していますが、様子だけでなく各職員の気づきなどももっと記録していけたらいいと思っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に受診にはまず家族の同行をお願いしています。場合によっては職員で対応したり、その時々状況に配慮したサービスを行うよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年、特に運営推進委員の方を中心に避難訓練に参加して下さったり、利用者さんの安全面等についてよく気にかけていただいておりますが、今年度は感染対策のため地域の方々との関わりをもつことができていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に事業所の協力医に変更される方が多いですが、それぞれの希望のかかりつけ医が定期的に往診して下さっており、必要に応じて受診したりその都度適切な医療を受けられるようにしています。	週1回の往診がある。かかりつけ医は選んで頂けるが、ほぼ全員の方が転医されている。歯科衛生士が月1～2回の訪問があり、口腔体操やブラッシング指導をして頂いている。訪問歯科は希望があれば、駆け付けてくれる。他科受診は、基本家族の方が連れて行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格をもった職員が勤務しており、心身の状態については指示を仰いでいます。週1回の医療機関からの訪問看護では、心身の状態を診ていただき、受診や介護につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際にはお互いに情報を共有し、入院中もその都度相談員さん等と連絡を取り合うようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針、終末期の方針について、まず入居の際に説明させていただきご家族にも考えていただきます。終末期が近づいたと判断されるときには再度確認して終末期の事業所のあり方を伝え、ご家族、主治医と話し合い、共に支えていけるようにと考えています。	看取りは実施しているが、ここ数年はなかった。医療との連携がしっかり出来てるので急変した場合や夜間帯でも迅速に対応して頂けた。入居時に、看取りに関する指針や重度化した場合の対応に係る指針と現状の希望を確認・説明をしている。急変した場合には再度、家族やドクターと相談している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	例年救急法の講習会を開いて職員で研修を行っていましたが、感染対策のため今年度も実践的な研修は難しい状況です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	例年運営推進委員さんや地域の方にも参加いただいた避難訓練を実施していましたが、今年度は感染防止のため施設内のみで避難訓練を行いました。地域の方には、災害時にご協力いただけるようお願いでもお願いを呼びかけています。	年2回昼夜設定で火災と地震想定の実施した。避難経路と連絡網を事務所に掲示していて、消防署への通報訓練も行った。備蓄は、2日分の水やレトルト食品を倉庫に保管している。期限間近の物は、食卓に並べることで有効活用ができた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げ、一人一人を尊重することを大切にしています。なれ合いになってしまわないよう気をつけなければならぬと話しています。	呼称の基本は苗字に「さん」付けだが、反応が良い場合や本人の希望により、下の名前に「さん」付けで呼ぶ場合もある。居室に入る時には、必ずノックをしてから「お邪魔します」と言葉をかけて入室する。利用者がリビングにいる場合に、居室に入る時には、必ず本人確認をするようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で思いや希望を表せない方には選択肢を示し、なるべく自分の思いを表せるようにと考えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事等の都合で職員から声をかけるときもありますが、居室で過ごされたり、ホールで過ごされたりと基本的にはそれぞれの希望やペースで過ごされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分やご家族から希望される方もおられたり、そうでない方には定期的に声をかけて地域の理美容室へ出かけて身だしなみを整えます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月一回程度おやつや昼食をみんなで作ります。いつまでもおいしく食事が食べられるよう、毎食前の職員との口腔体操、食後の口腔ケアを大切に、月1回程度の歯科衛生士さんとの口腔体操にも継続して取り組んでいます。	3食手作りで、副理事長が1か月の献立を作成し、病院の高血圧食を参考にして栄養バランスにも配慮している。誕生日には、赤飯やちらし寿司、巻きずしが好評の他、季節を感じて頂けるように、行事に合わせた食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べられる量やスピード等に合わせて声かけや介助を行います。水分量はチェック表に記入して誰が見てもわかるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行います。月1回程度歯科衛生士さんの口腔指導を受け、毎食前の口腔体操も継続して取り組んでいます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立ち上がりが難しくなりおむつ等で過ごす利用者さんも増えました。自立排泄のかたには排泄パターンや様子をみて声かけを行ったり、ポータブルを設置して自立にむけた支援を行っています。	トイレの扉に試行錯誤を重ねた【使用確認の札】を掲げ、中に人がいるかどうかの確認がスムーズにできるようになった。排泄失敗時には、「汚れてるから掃除してくわ」とさりげない言葉かけをすることで、自尊心を傷つけない配慮があった。排泄チェック表も活用していて、時間帯がわかるようになり誘導がスムーズになった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況は職員全員で把握し、水分摂取などで予防に努めています。ひどい便秘傾向の方もおられるので必要に応じて看護師が適切な対応を行います。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回9時半～15時頃の間で声をかけてみて、できるだけ利用者さんの好きな時間に入浴していただけるよう配慮しています。自宅ではシャワーしかできなかった利用者さんもおられ、入浴できることをご本人も家族も喜んでくださっています。	週3回の提供で1日で9名の利用者が入浴されている。入浴を拒否された場合は、人や日時を変え、決して無理強いはいしない方針。お風呂というワードを使わずに「温かいところへ行こう」や利用者同士が「入ってきたら」と言葉かけをしてくれる工夫が見られた。	今以上に安全面について考えてみてはいかがでしょうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの希望やペースによって休息していただいています。昼夜逆転にならないよう配慮して休んでいただけるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に新しい薬の処方があったときは様子をよく観察し、症状の変化を主治医にその都度報告、相談して判断を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物や食事の片づけなどできることは自分たちでも行います。お話や計算の得意な利用者さんもおられ、レクの時間などにも活躍していただきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策のため長く外出できていませんでしたが、最近は日向ぼっこや近所への散歩へ出たりしています。歩くことが難しい利用者さんが多く、近くへの外出です。紅葉を見にドライブへ出かけたり、ご家族と用事へ出かけたりする利用者さんもおられます。	近隣の花壇に散歩へ行き、花を見ることが癒しとなっている。ドライブがてら、紅葉を見に行き、写真を撮ったことが思い出の1ページとなった。なるべく動きの多いレクを増やすことで、生活機能維持やフラストレーションが溜まらないように工夫している。	今後の課題として、なかなか身体的にも厳しくなっているので、外に出るような、またでないでも外出しているような気分の企画を期待している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を紛失される恐れがあるため、原則持ち込みはお断りしています。必要に応じて事業所で立て替え、自分たちで買い物等ができるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の事情もあり、基本的に電話はご遠慮いただいています。年末には、ご家族やお知り合いの方へ向けた年賀状をみんなで書いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	みんなが集まるホールには利用者さんと職員で作った季節の壁画を飾って季節感を感じられるよう定期的に製作を支援しています。	リビングでは昭和の懐かしいメロディーが流れ、朝のティータイムでは「美味しい」の一言が聞けた。毎朝の体操が日課で、元気よく体操している姿が窺えた。壁面には、利用者と一緒に作成した、お花紙アートでトロロやバオバブの木の作品が展示されていて、作品にも色を意識する工夫が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの利用者さんが思い思いに過ごせるようソファや椅子を配置し、自由にくつろいでいただけるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室は、ベッド、洗面台、加湿器が備え付けで、その他の家具等は本人の馴染みのものや使いやすいものを持ち込んでいただけるようにしています。	ベット、エアコン、洗面台、加湿器が備え付け。コタツに入りながら、テレビを観て過ごすことが日課となっている。家族からの写真やハガキを飾ることで家族を身近に感じることができている。窓の外には自然の山々が拝め、昔ながらの風景を見ることが癒しとなっている。居室は、職員が毎日清掃していることで、清潔感が保たれていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの状態に応じて部屋に目印をしたり、共同で使用する場所の空き状況が自分たちで判断できるように札を設置したりしています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393500081		
法人名	特定非営利活動法人 ラヴィラント		
事業所名	グループホーム バオバブの木		
所在地	岡山県苫田郡鏡野町富東谷438		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 14 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんの平均年は90歳を超えました。車いす生活の方が増えたり、日々の体調の変化が激しくなっただけでこられた方もおられ、みんなで一緒に身体を動かすことはなかなか難しくなってきました。多くの利用者さんの一番の楽しみは食べることです。施設では、「口の中から健康に！」を目標に、数年前から利用者さんにいつまでもおいしく食べて元気に過ごしていただけるよう、毎日の口腔体操、口腔ケアに継続して取り組んでいます。月に1回程度、歯科衛生士さんに来ていただいて口腔体操等を一緒にしたり様子を見ていただいています。内科医や歯科医の訪問診療等の協力の元、コロナ禍でも安心して暮らすことができています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3393500081-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 12 月 9 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『昔ながらの風景に溶け込んで欲しい』ので、眺めが良い場所に設立し、馴染んで頂いている。部屋もブルーのカーテン、共有部分はピンクのカーテンにコーディネートし、居心地よくしている。少しでも今の状態を維持しようと洗濯物は自分で畳むなど、自分のことは自分でする生活に導いていて、小学校の机をもらい受けたことも、懐かしさや生活しやすい机の高さまでも心配りしていた。また、トイレの札も、使用中や電気確認の他、札を落とし、拾いかけて転倒に繋がったことから、安全にも成果があった。おやつ時にルイジアナ・ママなど懐かしい軽快なBGMを流し、楽しい空間を醸しだし、レクも小さいと見えない方も多いことから、わかりやすく大きく心がけ、かるたの字も大きく作成したことで、こだわりの数字かるたとなり、読み上げる度に利用者の顔がほころび、歓声が湧き上がる日課となっている。介護やレクの合間の職員のおしゃべりからアイデアが生まれ、何でも語れる場も出来上がり、できなかった時は、普通のノートに落書き風に記載し、胸に落ちる情報共有となっているのも、仲が良い関係が築かれている。「今日は何月？今日は何日、曜日？」と聞く利用者が多く、3時のおやつ後に、利用者が2か所の大きなカレンダーにカラフルな色付けをして、今日の日を理解できている。そんなバオバブの木の如く、千年の樹齢で毎年白い花を咲かせるように、毎日の1ページを刻む利用者の笑顔があった。常に利用者に合わせて何度も試行錯誤しながらの工夫が一つずつ実っていて、将来が頼もしい。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議の始めに、代表者から理念に関したことも含めた話をするように心がけています。	理念は玄関とリビングの職員が目に触れられるところに掲示している。理念を頭の片隅に常に置くことで、日々の業務に役立てている。新入職員には、管理者から理念を伝えることで理解して頂き、何かわからないことがあれば、質問に答えることでより明確となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ禍のため交流ができていませんが、富ボランティアの方が今年も施設の掃除にきてくださいました。利用者さんとの交流はできませんでしたが、職員と一緒に掃除の様子を見て、庭などがきれいになった様子を喜んでおられました。	地域清掃に職員が参加したり、散歩の際には、地域の方と挨拶を交わしたりする関係ができています。正月には毎年近隣住民の訪問があり、利用者と一緒に飾りの作成をしています。コロナ前には、保育園児との交流や地区のお祭りの神輿が来てくれていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の施設のお便りを地域にも回覧して、利用者さんの活動状況等を地域の方にも知っていただけるようにと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策のため、現在のところ文書での開催を行っています。	会議は、病院関係者、振興センター長、区長会長、民生委員、老人クラブ、婦人会、公民館長、保健福祉課、地域包括、利用者や家族が参加している。入居者状況、事故発生状況、活動報告、職員の体験談について報告を行った。現在は郵送にて開催しているが、コロナの状況を見ながらリアル開催もできた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	開所以降常に利用者が少ない現状があり、なかなか現状は解決しませんが、常に要望を伝えさせていただったり時には話し合いの場を設けてくださっています。	管理者か事務員が窓口となっている。やり取りの基本はメールだが、電話連絡の場合もある。最近では、抗原検査の案内やコロナ感染状況、ノロウイルス関連の情報を頂いた。加算状況の確認をした際には、親切・丁寧に教えてくれたことで、施設は大助かりであった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望が強く落ち着かない様子の利用者さんが多いですが、対策について話し合いをしたり、センサーの利用や見回りを増やして身体拘束をしないケアを行っています。	身体拘束や日中の施錠はしていない。勉強会の時には、職員に対して、自分や家族がされて嫌な事と感じたり思う事はやめようと再確認している。また、虐待防止と身体拘束、スピーチロックに関しても触れることで意識を高めている。事故報告書にまとめて全体で共有することで、再発防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修では自分の介護を振り返り、虐待のないケアを行えるよう努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者さんもおられます。市民後見人養成研修に参加した職員もおり、学んだことを他職員とも共有できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明を行い、ご理解いただけるよう努めています。質問等があればその都度対応するようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りで活動の様子をお伝えしたりお電話や来所の際に様子をお伝えする中で、ご家族の思いやご意見も聞けるよう努めています。	家族からの意見は、事務員が電話で聞き取ってまとめたものを職員で検討している。利用者から「コタツが欲しい」という要望があり、家族がすぐに持って来てくれたことがあった。月1回の「バオバブ・ねむだより」を郵送があり、利用者の写真と職員のメッセージを見ることが、家族の楽しみとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング、申し送りの他、普段から意見を聞けるように努めています。意見があれば代表者と管理者で話し合いをしてお応じます。少人数で職員同士すぐ話ができるため意見等があればすぐに伝わってきていると思います。	連絡ノートを活用することで、利用者の情報共有ができています。職員間の仲は良く、お茶を飲みながら和気藹々と過ごすことで、何でも言える関係ができています。有給休暇の取得もできていて、働いている職員は「仕事が楽しい」と答えてくれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や資格取得等に応じて昇給を考慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度も感染対策のため、施設外研修に参加しにくく施設内研修が主になっていますが、オンラインも活用して研修に参加しました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度も感染対策のため、施設外の方と交流する機会がなかなかありませんが、研修に参加した際には他施設の職員さんと情報交換等ができています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居して間もない利用者さんには特に、ご家族からその都度情報をいただいたり、信頼関係が築けるよう生活の様子の観察、傾聴に心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、申し込み、面接の際には、困りごとなどのお話を詳しく伺います。特に初期は、家族が安心して利用者さんを預けられるよう配慮して様子を伝えたり情報をいただいたり関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の様子や家族等のお話を伺う中で、当事業所のサービスでよいのかなど、協力医にもアドバイスをいただきながら他サービスも含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分のことでも施設のことでも、食事の片づけや掃除などのできることはしていただき、一緒に生活する雰囲気作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんはやはりご家族を必要とされておられるので、安心できる立場として協力していただきたい思いを常にお伝えしています。感染対策での面会制限は利用者さんには理解し難く、感染状況を鑑みて窓越しや玄関での短時間の面会で対応しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策のため外出することやご家族以外の方にお会いすることが難しくなっているため、ご家族になるべく定期的に面会にきていただけるようお願いしています。	現在面会は、人数制限や短時間で玄関で実施している。利用者本人が作成した年賀状を送ることが毎年の恒例行事となっている。リビングのソファに腰掛け、ゴリラのぬいぐるみとの会話を楽しんだり、外の風景を眺めたりして過ごしている。ドライブの際に、たまたま職員に遭遇し、「この人みたことあるな」と挨拶を交わす関係ができていて、職員が馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで一緒にできる行事を計画したり、レクに参加できるよう声をかけたり、時にはテーブルの配置換えをしている方と関りが持てるように考えています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も機会があれば家族等から様子をお聞きし、必要に応じてサービスを紹介したり相談に応じられるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から思い出を聞いたりしてできる限り希望に添えるようにという思いですが、今年度は感染対策のため帰宅願望等にはお応えすることができていません。	家族からの聞き取りや昔好きだったものを確認している。もし合わなかった場合は、利用者の様子を見たり、職員間で話し合うことで、意向が把握できるように工夫している。毎日の日課として、日付確認のための色塗りをして頂いているが、その日の状態によって無理強いをさせないように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や入所時に全部情報を得ることは難しく、入所後の本人やご家族とお話でわかってくることもたくさんあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化に気づいたときには記録に残すようにしており、ミーティングや会議等で話し合い職員全員で現状把握ができるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、管理者、介護職員それぞれの立場で、本人や家族や主治医などから聞いたことや介護の状況を計画につなげられるよう会議等で話し合いを行います。	介護計画は基本、入居時に暫定プラン、何もなければ半年ごとに更新し、何かあればその都度見直しをしている。ケアマネを中心に話し合い、長期目標や短期目標を掲げ、利用者に無理のないプランとなっている。日々の介護がモニタリングとなっていて、支援経過に記入することで職員間で共有することができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	具体的な記録を残すことを目標に実践していますが、様子だけでなく各職員の気づきなどももっと記録していけたらいいと思っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に受診にはまず家族の同行をお願いしています。場合によっては職員で対応したり、その時々状況に配慮したサービスを行うよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年、特に運営推進委員の方を中心に避難訓練に参加して下さったり、利用者さんの安全面等についてよく気にかけていただいておりますが、今年度は感染対策のため地域の方々との関わりをもつことができていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に事業所の協力医に変更される方が多いですが、それぞれの希望のかかりつけ医が定期的に往診して下さっており、必要に応じて受診したりその都度適切な医療が受けられるようにしています。	週1回の往診がある。かかりつけ医は選んで頂けるが、ほぼ全員の方が転医されている。歯科衛生士が月1～2回の訪問があり、口腔体操やブラッシング指導をして頂いている。訪問歯科は希望があれば、駆け付けてくれる。他科受診は、基本家族の方が連れて行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格をもった職員が勤務しており、心身の状態については指示を仰いでいます。週1回の医療機関からの訪問看護では、心身の状態を診ていただき、受診や介護につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際にはお互いに情報を共有し、入院中もその都度相談員さん等と連絡を取り合うようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針、終末期の方針について、まず入居の際に説明させていただきご家族にも考えていただきます。終末期が近づいたと判断されるときには再度確認して終末期の事業所のあり方を伝え、ご家族、主治医と話し合い、共に支えていけるようにと考えています。	看取りは実施しているが、ここ数年はなかった。医療との連携がしっかり出来てるので急変した場合や夜間帯でも迅速に対応して頂けた。入居時に、看取りに関する指針や重度化した場合の対応に係る指針と現状の希望を確認・説明をしている。急変した場合には再度、家族やドクターと相談している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	例年救急法の講習会を開いて職員で研修を行っていましたが、感染対策のため今年度も実践的な研修は難しい状況です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	例年運営推進委員さんや地域の方にも参加いただいた避難訓練を実施していましたが、今年度は感染防止のため施設内のみで避難訓練を行いました。地域の方には、災害時にご協力いただけようお便りでもお願いを呼びかけています。	年2回昼夜設定で火災と地震想定の実施した。避難経路と連絡網を事務所に掲示していて、消防署への通報訓練も行った。備蓄は、2日分の水やレトルト食品を倉庫に保管している。期限間近の物は、食卓に並べることで有効活用ができた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げ、一人一人を尊重することを大切にしています。なれ合いになってしまわないよう気をつけなければならないと話しています。	呼称の基本は苗字に「さん」付けだが、反応が良い場合や本人の希望により、下の名前に「さん」付けで呼ぶ場合もある。居室に入る時には、必ずノックをしてから「お邪魔します」と言葉をかけて入室する。利用者がリビングにいる場合に、居室に入る時には、必ず本人確認をするようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で思いや希望を表せない方には選択肢を示し、なるべく自分の思いを表せるようにと考えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事等の都合で職員から声をかけるときもありますが、居室で過ごされたり、ホールで過ごされたりと基本的にはそれぞれの希望やペースで過ごされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分やご家族から希望される方もおられたり、そうでない方には定期的に声をかけて地域の理美容室へ出かけて身だしなみを整えます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月一回程度おやつや昼食をみんなで作ります。いつまでもおいしく食事が食べられるよう、毎食前の職員との口腔体操、食後の口腔ケアを大切に、月1回程度の歯科衛生士さんとの口腔体操にも継続して取り組んでいます。	3食手作りで、副理事長が1か月の献立を作成し、病院の高血圧食を参考にして栄養バランスにも配慮している。誕生日には、赤飯やちらし寿司、巻きずしが好評の他、季節を感じて頂けるように、行事に合わせた食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べられる量やスピード等に合わせて声かけや介助を行います。水分量はチェック表に記入して誰が見てもわかるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行います。月1回程度歯科衛生士さんの口腔指導を受け、毎食前の口腔体操も継続して取り組んでいます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立ち上がりが難しくなりおむつ等で過ごす利用者さんも増えました。自立排泄のかたには排泄パターンや様子を見て声かけを行ったり、ポータブルを設置して自立にむけた支援を行っています。	トイレの扉に試行錯誤を重ねた【使用確認の札】を掲げ、中に人がいるかどうかの確認がスムーズにできるようになった。排泄失敗時には、「汚れてるから掃除しとくわ」とさりげない言葉かけをすることで、自尊心を傷つけない配慮があった。排泄チェック表も活用していて、時間帯がわかるようになり誘導がスムーズになった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況は職員全員で把握し、水分摂取などで予防に努めています。ひどい便秘傾向の方もおられるので必要に応じて看護師が適切な対応を行います。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回9時半～15時頃の間で声をかけてみて、できるだけ利用者さんの好きな時間に入浴していただけるよう配慮しています。自宅ではシャワーしかできなかった利用者さんもおられ、入浴できることをご本人も家族も喜んでくださっています。	週3回の提供で1日で9名の利用者が入浴されている。入浴を拒否された場合は、人や日時を変え、決して無理強いはいしない方針。お風呂というワードを使わずに「温かいところへ行こう」や利用者同士が「入ってきたら」と言葉かけをしてくれる工夫が見られた。	今以上に安全面について考えてみてはいかがでしょうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの希望やペースによって休息していただいています。昼夜逆転にならないよう配慮して休んでいただけるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に新しい薬の処方があったときは様子をよく観察し、症状の変化を主治医にその都度報告、相談して判断を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物や食事の片づけなどできることは自分たちでも行います。お話や計算の得意な利用者さんもおられ、レクの時間などにも活躍していただきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策のため長く外出できていませんでしたが、最近は日向ぼっこや近所への散歩へ出たりしています。歩くことが難しい利用者さんが多く、近くへの外出です。紅葉を見にドライブへ出かけたり、ご家族と用事へ出かけたりする利用者さんもおられます。	近隣の花壇に散歩へ行き、花を見ることが癒しとなっている。ドライブがてら、紅葉を見に行き、写真を撮ったことが思い出の1ページとなった。なるべく動きの多いレクを増やすことで、生活機能維持やフラストレーションが溜まらないように工夫している。	今後の課題として、なかなか身体的にも厳しくなっているので、外に出るような、またでないでも外出しているような気分の企画を期待している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を紛失される恐れがあるため、原則持ち込みはお断りしています。必要に応じて事業所で立て替え、自分たちで買い物等ができるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の事情もあり、基本的に電話はご遠慮いただいています。年末には、ご家族やお知り合いの方へ向けた年賀状をみんなで書いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	みんなが集まるホールには利用者さんと職員で作った季節の壁画を飾って季節感を感じられるよう定期的に製作を支援しています。	リビングでは昭和の懐かしいメロディーが流れ、朝のティータイムでは「美味しい」の一言が聞けた。毎朝の体操が日課で、元気よく体操している姿が窺えた。壁面には、利用者と一緒に作成した、お花紙アートでトロロやバオバブの木の作品が展示されていて、作品にも色を意識する工夫が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの利用者さんが思い思いに過ごせるようソファや椅子を配置し、自由にくつろいでいただけるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室は、ベッド、洗面台、加湿器が備え付けで、その他の家具等は本人の馴染みのものや使いやすいものを持ち込んでいただけるようにしています。	ベット、エアコン、洗面台、加湿器が備え付け。コタツに入りながら、テレビを観て過ごすことが日課となっている。家族からの写真やハガキを飾ることで家族を身近に感じることができている。窓の外には自然の山々が拝め、昔ながらの風景を見ることが癒しとなっている。居室は、職員が毎日清掃していることで、清潔感が保たれていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	それぞれの状態に応じて部屋に目印をしたり、共同で使用する場所の空き状況が自分たちで判断できるように札を設置したりしています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない